



準前に設計され、児童生徒が一日の大半を過ごし、なおかつ非常災害時には地域住民の避難場所にも指定されている幌延小学校・問寒別小中学校の耐震診断を実施したいと考えております。また、教職員住宅については、老朽化の著しい問寒別地区について、合併浄化槽の設置と併せて改修を行い、今後の児童生徒数の推移や教職員の動向を視野に、効率的かつ計画的な整備

に努めてまいります。

第2に、社会教育の施策について申し上げます。

少子高齢化を向かえ、価値観が多様化している中でも、「学習」を通して、新しい発見があり、喜びがあり、心を豊かにすることが可能であります。

生涯でいつでも自由に学習機会を選択し、その成果が評価される生涯学習社会が求められており、一人一人の学びや活動を支援し、共に生き、育ち、共に感動することで地域文化の向上につなげて行くことが重要となっております。

第4次社会教育中期計画では、生涯学習社会に向けた目標として、「学習や社会参加への意欲を高め、自ら啓発に努める社会教育活動」「ふれあいを深め、豊かな心を育む文化活動」「健康で活力のある生活をめざす、スポーツ活動」の推進を図

ることを基本に定め、個々の事業を取組んできております。

少子化の中で、異学年の交流や地域の大人との交流を図っている幌延・問寒別の「放課後の居場所づくり」事業は、個々の自主性、社会性、創造性を育む取り組みとして、文部科学省の助成制度を活用しながら継続してまいります。また、地域の人材を活用するため「人材バンク」登録を呼びかけながら青少年の健全育成事業に努めます。

青少年の生きる力を育て、豊かな心を育てるには、家庭・学校・地域社会のそれぞれの持つ役割を發揮し、相互に連携を図ることが必要です。特に「子ども会育成連絡協議会」「ワラベンチャー問寒クラブ」「ふるさと自然体験教室」は、少年期のふるさとを実感できる体験活動として根付いており支援・推進してま

いります。

家庭は子どもにとって、安すらぎの場であり、また思いやりやマナーなど社会生活を営むうえで基本的な能力を養う場でもあり、家庭の教育力を向上させる上で、家庭教育学級やPTA活動との連携、支援をしながら、効果的な学習活動を進めて参ります。

青年については、まちづくりの中心的担い手として期待されており、各種ボランティアや団体を通じた交流活動の場を尊重しながら、リーダー研修、講習会への参加を呼びかけます。

生涯の中で最も長い時期を占める成人期は、年代や生活実態に合った学習が必要となります。新しい課題に対応しながら地域の連帯性を高め、人と人との交流を深めるうえで「生涯学習講座」の実施や「女性学級」での活動を支援します。



まちづくりの推進において、女性のきめ細やかな視点は必要であります。女性の学びや地域活動を進めている「幌延町内会女性部連絡協議会」と女性の団体としてのネットワークづくりを推進している、ほろのべ女性会議」の活動を尊重し支援いたします。

高齢者の経験や知識を生かした活動を奨励すると共に、「生きがい教室」を通してボランティア活